

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

6月号(NO21)通巻 171号

2020年6月10日(水)発行(毎月10日)

【農暦】コロナ禍が嘘のように感じる！

○田んぼは緑の絨毯に変わろうとしている。庭先には紫陽花が咲き始めている。自然の移ろいは確かなものがある。暦では5日は芒種、10日は入梅で、芒種とは、稲や麦などの穂の出る植物の種を蒔く頃のこと、芒は、稲や麦の穂先にある針のような突起のことを云う。稲の種蒔きはハウスで4月中旬と聞く。梅雨は梅の雨と書く。庭の梅の実が大きくなって来ている。“青梅の臀(しり)うつくしくそろひけり”と室生犀星が詠んでいるが、よく見ると確かに赤ちゃんのお尻と似ていて美しい？。先日の天声人語にあった。雨に濡れた紫陽花は格別なものがある。絵になる。コロナ禍とは別世界に居るような気がする。



＜梅の実＞小さな庭で今年も。7日撮影

○最近、野菜の旬が判らなくなって来ている。輸入野菜もあるからかも知れないが、暦が農作業と合わなくなっている事と、重なっているように思える。いつでも何でも買えるのは良いが、豊かさだけを求めるのではなく、自然と共に、少しだけ見直したくなる。また、豊かさの裏に貧困がある事、格差がある事、それも気になる。今、ワシントンでは、史上最大のデモが発生しているが、コロナ禍にも貧困格差、人種格差がある。コロナが日本で、世界で格差などの矛盾を露わにしている。

○中途半端は怪我のもとと謂うが、それ故か、失敗が多い。霜柱、風、鳥に虐められた玉葱は、収穫時期に来ているが、小さいままである。ホーリーバジル、ミニトマトの育苗も失敗である。土、温度、水の管理に問題があった様である。僅かに発芽した苗だけでも大事にしたい。貧弱な空豆と玉葱を見て気の毒に思われたのか、畑のご近所さんから、空豆と玉葱のお裾分けを頂いた。絹さやは、例年よりも、よく出来た。美味しく頂いている。ご近所さんにお裾分けも出来た。



＜頂いた玉葱＞畑の貧弱な玉葱を見てか。5日撮影

○コロナホームステイの影響か、農作業した後は、全身筋肉痛？である。遅くはじめて暗くなるまでやってしまう。悪い癖である。やればやるほどやるが見えてくる。畑らしい畑？に早くしたい。ラインで熱中症に気付くと云われると、気になる。一挙に夏の気温になっている。野菜も戸惑っているようだ。生育が心配になる。(了)

【楽農】＜畑＞トマト(追加)、落花生(オオマサリ)の植込み。

長ネギの植え替え。絹さや収穫、農資材片付け、草刈りなど。

【楽市】イベントなど；共生の会(4日)、TBG再開。詩吟の会、川柳の会は中止継続。

【つぶやき=Tweet】内閣支持 39.1%不支持 59.2%であった！

○コロナ禍の中、検察の定年延期、持続化給付金の丸投げ（20億円不当益？）疑惑、補正予算の予備費 10 兆円など、問題が続出している。安倍一強で派閥も機能せず、目に余るものがある。そんな中で、テレビのニュースで内閣支持率をやっていた。気になっていたのも、ネットで見てみた。JNN（TBS）の世論調査では、支持 39.1%（先月より-8.2%）不支持 59.2%（+8.4%）で、NHK の世論調査では、支持 37%（先月から-2%）不支持 45%（+7%）であった。各局とも、ほぼ同じような数字になっていた。森・加計以来、やりたい放題、問題だらけであり、当然だと思った。“安倍のマスク”は、まだ届かなくても、我慢できる国民性を、我慢にも、誇りにも出来ない。情けないと思うだけである。だが、官に弱い国民性でも、支持と不支持がやっと逆転した。

○フランスの黄色いジャケットデモ、香港、アメリカと、激しい怒りのデモが続いている。民主主義が機能しているとは思えないが、デモがあるだけ増しかも知れない。日本では、怒りは内側に、虐待、コロナ離婚などと、身近な弱者に向かう。バス中で老人同士の罵り合う映像は寂し過ぎる。

○自民党支持は、ほぼ 3 割、政党支持なしは、ほぼ 4 割強で政治離れが続いている。何があっても自民支持（=官）は固く変わらない。だが、半数近くは、政治不信。無関心

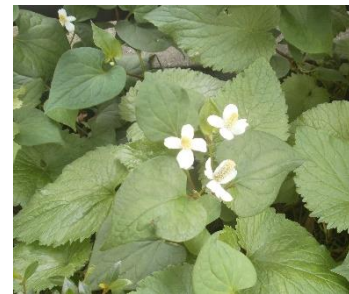
（=政党支持なし）で、これもあまり変わらない。政治の貧困としか言いようがない。日本だけでないので、より深刻である。政治家の質が落ちているように思えてならない。大国だけに、心配されるのは、トランプ大統領である。まともに、思えるのは、ドイツのメルケル首相位である。コロナ対策も他国と比べると確りしている。だが、任期で辞めるといふ。辞めて欲しい政治家は辞めない。くどくなるので、この辺で止める。

○まだ、終わった訳ではないが、コロナのホームステイは、私にとって大事なトライであった気がする。本も読んだ。資料も整理した。映画はホームシアターで 3 本見た。スケッチも描いてみた。PC ソフトのミニトラブルを数件、克服した。断捨離は、少しは進めたが、一里塚には変わらない。中途半端なことばかりだが、思わぬ拘束で、向きあいたくない自分に向き合わされたような気がする。私的には思わぬ収穫になった。多くの人が、厳しい生活を強いられているのである。収穫なぞとは、不謹慎かもしれない。（了）

○断捨離考：あっちを少し、こっちを少しと、進めた。成果が少しだけ見えて来た。生活の質向上につなげたい。

【後記】 田んぼは、緑の絨毯に、みどり一色、3 密を避けた生活？を、暫くは覚悟せねばと。

【編集せずランダム構成】



<ドクダミの花>可憐、清楚、この花が好きだ。7日撮影

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸 4 2 0 1 - 1 0

携帯電話；0 9 0 - 9 3 3 3 - 4 1 3 5

HP；k o g u r e 農場

メール；torao-k@nifty.com